

「子供が見せる何気ないサイン」への望ましい対応

1 サインに気付く

子供の気がかりな様子・サイン

言葉や行動に見られるサイン：例

- 遅刻、早退、欠席、保健室に行くことが増える。
- 自暴自棄な言動をする。
- 攻撃的□衝動的な行動が多くなる。
- 大切にしていたものを誰かにあげてしまう。
- 「遠くへ行ってしまいたい」「生きているのが辛い」などの発言がある。
- 自らを傷つけるなどの行為に及ぶ。
- 死についての文章や絵を描いたりする。
- 物事に集中できない。
- 友人関係が変わったり、孤立している様子が見られる。

身体に見られるサイン：例

- 疲れている様子が見られる。
- 様々な身体の不調を訴える。
- 眠れないことが続く。
- 食欲が急に落ちる。
- 身体にあざや傷がある。

表情や態度に見られるサイン：例

- 憂うつな表情をしていることが多い。
- 不機嫌でイライラしている。
- これまで関心があったことにも興味を失う。
- 身だしなみを気にしなくなる。
- 突然泣き出すなど情緒不安定となる。
- 無気力で投げやりな態度が目立つ。
- 教職員と目を合わせない。

子供への適切な接し方・対応

- 普段から子供一人一人に気にかけていることを示し、信頼関係を築いていく。
- 心配な様子が見られたら、「どうしたの？」と声をかける。
- 子供の気持ちを受け止め、安易に励ましたり、一般論で諭さない。
- 子供が相談してきたら、できる限り気持ちに寄り添い丁寧に聴く。
- 教職員の心配している気持ちを伝える。
- 「保護者には知られたくない」「他の先生に言わないで」と言われても、「皆で協力して支えるために」と保護者や他の教職員にも伝えたいことを話し、理解を促す。
- 子供一人一人の良い面を伸ばし、皆に認められるような機会の設定を工夫する。

※子供が友達にしか話をしていない場合も、キャッチできるような環境づくりが大切です。

2 組織として協議し、対応の方針を検討する

委員会等での対応の方針の検討

- 教育相談部会や委員会などを分掌に位置付け、気になる子供の情報を定期的に共有する。
- 校内での具体的な対応方法を検討する。（事例検討会や個人面接、保護者との面接等）
- コーディネーターは、「教育相談担当」「生活指導主任」「特別支援教育コーディネーター」「養護教諭」などの教職員がよい。

情報収集・共有

- 健康アンケートや連絡帳等から分かる子供の状況を、担任や養護教諭から収集する。
- 必要に応じて子供たちと面接を行い、情報を収集する。
- 担任、教科担当、部活動の顧問、保護者などからの情報を共有する。

保護者との協力

- 年度の早い時期に全家庭と個別面談や電話をし、信頼関係を作っていく。
- 子供の活発な姿や頑張っていることを伝え、子供の成長に関心をもってもらう。
- 心配な子供については、特別なことがなくても、保護者へ定期的に連絡を心掛ける。
- 「何か気になったら、いつでも気軽に御相談ください」と伝え、その後も連絡を取り合い、協力体制を築いていく。
- 保護者の不安を取り除くよう、ささいな心配でも丁寧に聴くように心掛ける。
- 場合によっては、教育相談機関や医療機関で専門家から助言をもらうこと等を保護者に提案する。

子供・保護者を関係機関につなげる場合

☆医療機関との連携が必要な状況例

- 情緒不安定で、自傷行為や自殺念慮がある場合
- 強迫行為や強迫観念がひどい場合
- 対人不安が強く、外出もままならない場合
- 摂食障害が疑われたり、言動に何となく違和感がある場合
- 衝動性が抑えられなかったり、睡眠障害が見られたりして、本人も困っている場合

*** スクールカウンセラーや外部の心理の専門家に依頼し、専門的な立場から勧めてもらっても一つの方法です。**

☆子供・保護者が関係機関に相談することをためらう場合の助言例

- 不眠や食欲不振などがある場合には、身体の健康を保つことが何よりも大切である。
- 家庭と学校が連携して適切な対応をしているためには、専門家の助言が必要である。
- 心理の専門家は、子供の悩みを理解したり、その悩みの解決に向けて援助する人である。
- 医療機関の支援が必要な場合は早いほうがよい。もし医療機関の支援の必要はないと診断されれば、それに越したことはない。